

妙見山鳥獸保護区

鳥獸保護区更新調査業務 報告書

令和6年度

大阪府環境農林水産部動物愛護畜産課

目次

1.	調査の目的	1
2.	調査区域及び調査対象	1
3.	調査内容	1
4.	調査地の概要及び環境	2
5.	調査方法	3
6.	調査範囲および調査地点	4
7.	調査結果	5
7-1	現地調査結果	5
①	調査時期・天候・時間	5
②	鳥類確認種	6
③	鳥類の繁殖状況	8
④	ラインセンサス法による鳥類の確認個体数	9
⑤	定点観察による鳥類の確認個体数	10
⑥	重要種	11
⑦	哺乳類確認種	13
⑧	哺乳類重要種	13
7-2	文献・資料調査結果	14
①	文献調査による鳥類確認種	15
②	文献調査で確認された重要種（鳥類）	18
③	文献調査による哺乳類確認種	19
④	文献調査で確認された重要種（哺乳類）	19
8.	まとめ	20
8-1	調査結果の集約	20
8-2	総括	20

1. 調査の目的

この調査は、大阪府が指定した既存鳥獣保護区のうち、妙見山鳥獣保護区の存続期間の更新等についての検討資料とするため、その地域における野生鳥獣の生息状況など地域の自然環境に関する基礎資料を得ることを目的とする。

2. 調査区域及び調査対象

豊能郡の豊能町、能勢町にわたる妙見山鳥獣保護区（約 394ha）に生息する野生鳥獣等を調査対象とした。妙見山鳥獣保護区の範囲は図 3-1 に示す。

3. 調査内容

既存データを活用し、実地調査により、次の事項を把握した。

- ・ 調査地の概要及び環境（地形、植生の状況等）
- ・ 鳥獣の生息状況（リスト作成）、生息区分、特色等

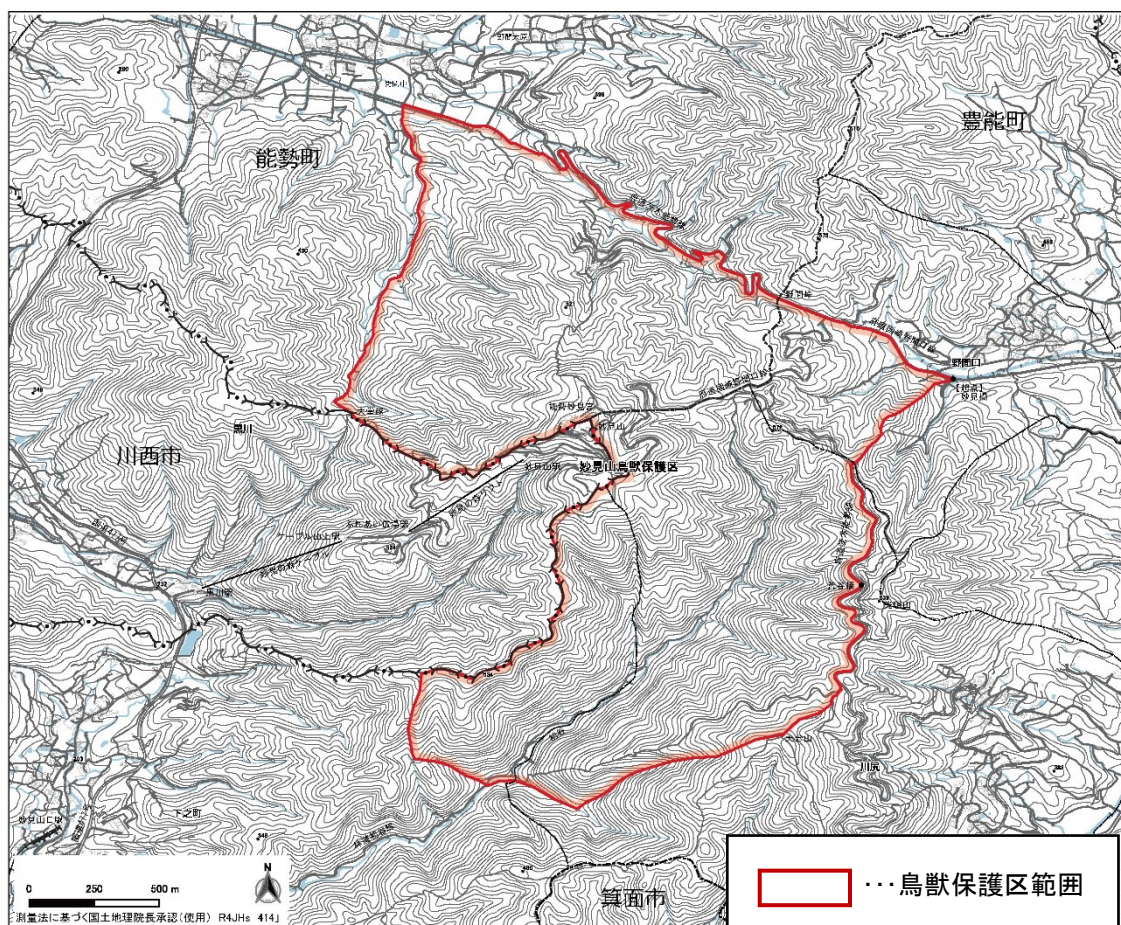


図 3-1 妙見山鳥獣保護区の範囲

4. 調査地の概要及び環境

妙見山鳥獣保護区は、大阪府と兵庫県の境界に位置する標高 660m の妙見山を中心とする、394ha の山林に設定された鳥獣保護区である。府道国崎野間口線を北端とする妙見山の山城に加え、府道茨城能勢線を天台山まで南下する尾根と、兵庫県境の尾根との間を走る初谷川の最上流域が鳥獣保護区に含まれる。

保護区の広い範囲はスギ・ヒノキ・サワラ植林が占めるが、山林は部分的にアベマキ・コナラ群集、イロハモミジ・ケヤキ群集、モチツツジ・アカマツ群集等が分布し、北端の府道国崎野間口線沿いの谷筋に水田雑草群落がみられる。特筆すべきは山頂付近に局所的に分布するブナ・ミズナラ群集で、樹齢 700～800 年の巨木をはじめ 400 本余りのブナが生育する。西日本では標高 1000m 未満の山地でブナ林が成立することは珍しく、大阪府の天然記念物として指定されているほか、大阪府自然環境保全地域、大阪みどりの百選としても指定されている。

妙見山は信仰の山で、能勢町地黄にある眞如寺の飛び地境内、日蓮宗の寺院として多くの参拝客を集めているほか、北側斜面には天台宗系妙見宗の本瀧寺も建立している。これらの施設をはじめ、周辺山上のハイキング等の足として利用されていた妙見の森ケーブルは 2023 年 12 月に施設の老朽化やマイカー普及による利用者の減少等の理由で廃止となったが、廃止直前の 10 月、11 月の利用客は、前年同時期の約 5 倍、延べ 10 万人強に及んだ。妙見の森ケーブルと同じ経営であったリフトやバーベキュー場、足湯などの営業も同時に終了している。

参考：妙見山《自然環境保全地域》／大阪府（おおさかふ）ホームページ [Osaka Prefectural Government]
<https://www.pref.osaka.lg.jp/oi120150/hokubunm/youkoso/myoukensan.html>. 大阪府
大阪府指定天然記念物妙見山のブナ林／大阪府（おおさかふ）ホームページ [Osaka Prefectural Government]
https://www.pref.osaka.lg.jp/oi180150/bunkazaihogo/bunkazai/myoukensan_bunarin.html
「妙見の森ケーブル」運行終了、63 年の歴史に幕 詰めかけたファン「寂しい」「ありがとう」 川西|阪神|神戸
新聞 NEXT <https://www.kobe-np.co.jp/news/hanshin/202312/0017096622.shtml>
北極星信仰の世界的聖地 | 日蓮宗霊場 能勢妙見山 <https://www.myoken.org/>

5. 調査方法

調査は、現地調査および表 5-1 に示す文献による文献調査を実施した。

現地調査は、ラインセンサス法と定点観察法、任意観察を実施した。ラインセンサス法では、調査ルートを約 2km/h の速度で歩き、調査ルートの両側 25m、合計 50m の範囲に出現した鳥類を記録した。定点観察法では、調査定点に 30 分間滞在し、確認された鳥類を記録した。任意観察では、ラインセンサス法の調査ルートや定点観察法の調査地点からは把握しにくい範囲を踏査したほか、繁殖確認、写真撮影に注力した。調査時期は、繁殖期、秋の渡り期及び越冬期とした。

確認された種から重要種を抜粋した。重要種の選定基準は表 5-2 に示すとおりである。

表 5-1 参考文献・参照資料

文献 No.	文献・情報名	発行または実施年・発行者
文献 1	大阪府鳥類目録 2016	平成 28 年・日本野鳥の会大阪支部
文献 2	能勢定例探鳥会観察記録 https://wbsjosaka.com/bw/regular/nose/2021/05/26/record/	平成 27 年～令和 6 年・日本野鳥の会大阪支部（2024 年 12 月 15 日更新）
情報 1	大阪市立自然史博物館 標本収蔵記録 （和田岳学芸員からのヒアリングによる）	令和 6 年 7 月 9 日実施

表 5-2 重要種の選定基準

選定基準
絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（種の保存法）
環境省レッドリスト 2020（環境省 R L）
大阪府レッドリスト 2014（大阪府 R L）

6. 調査範囲および調査地点

調査範囲は妙見山鳥獣保護区全域とした。ラインセンサス法の調査ルートは、鳥獣保護区内を流下する初谷川沿いの R1 (2.7km)、鳥獣保護区東端の尾根に沿って走る府道茨木能勢線の R2 (1.8km) の 2 ルートを設定した。定点観察法の調査地点は妙見山山頂に P1 を設定した。任意観察では、ラインセンサス法や定点観察法では捕捉しにくい範囲の北側を中心に踏査した。調査ルート及び調査地点の位置は図 6-1 に示すとおりである。

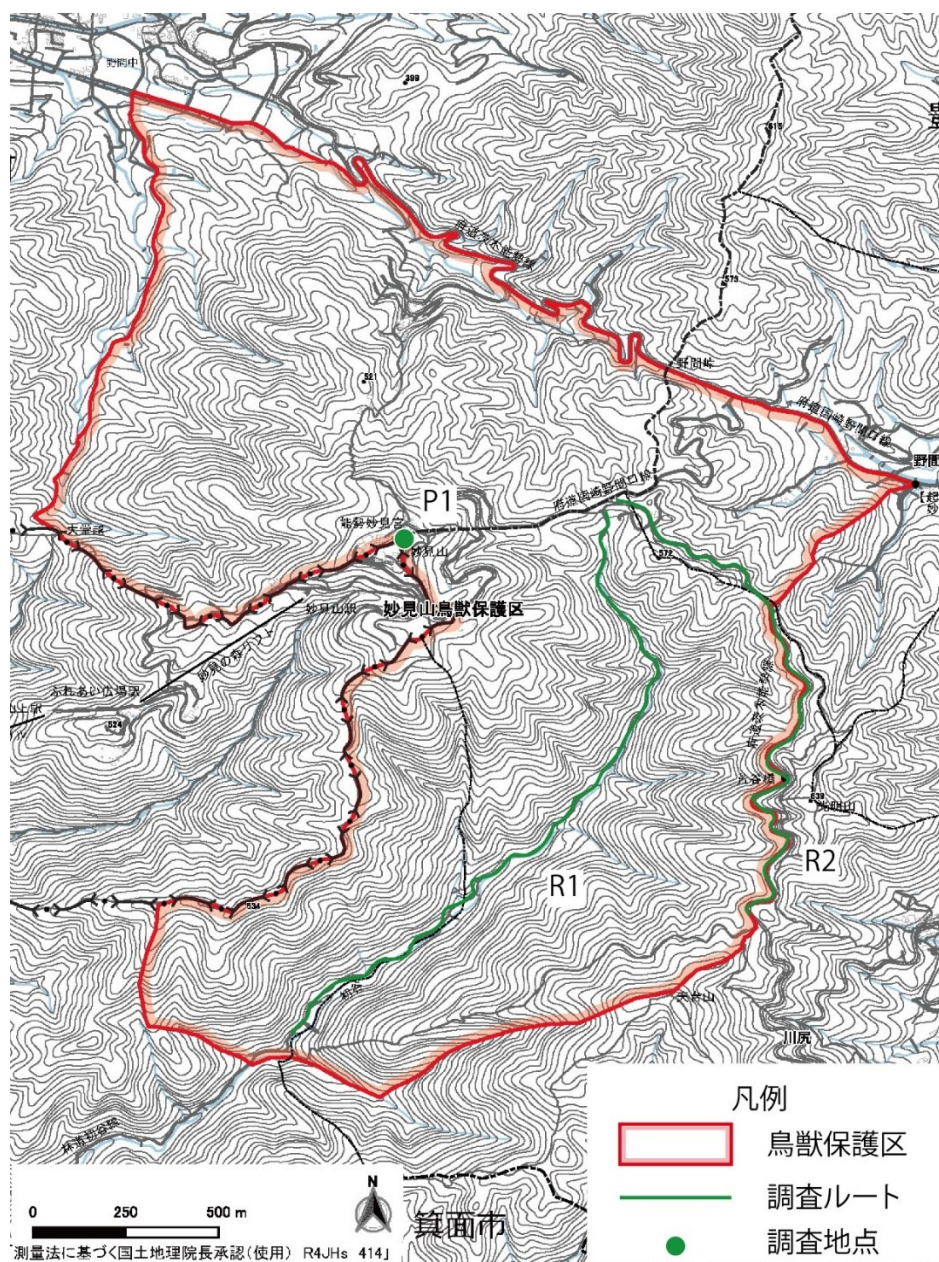


図 6-1 調査ルートおよび調査地点

7. 調査結果

7-1 現地調査結果

① 調査時期・天候・時間

現地調査時期、天候、調査時間を表 7-1 に示す。

表 7-1 調査時期・天候・調査時間

調査時期	調査日時	天候	調査時間	
繁殖期	令和 6 年 7 月 4 日	曇りのち晴れ	R1	8:17～9:24
			R2	7:16～8:13
			P1	11:56～12:26
			任意	7:15～16:00
秋期	令和 6 年 9 月 19 日	曇り	R1	8:22～9:28
			R2	9:33～10:24
			P1	10:54～11:24
			任意	8:00～16:00
越冬期	令和 6 年 12 月 20 日	曇りのち晴れ	R1	10:03～11:12
			R2	7:43～8:45
			P1	11:36～12:06
			任意	8:50～16:00

② 鳥類確認種

現地調査の結果、8 目 27 科 49 種の鳥類を確認した。確認種の一覧を図 7-1 に示す。

現地調査で確認した鳥類の渡り区分は、留鳥 26 種、夏鳥 12 種、冬鳥 8 種、旅鳥 1 種であった。また、移入種としてコジュケイ、ソウシチョウの 2 種が確認された。割合で見ると留鳥 53%、夏鳥 25%、冬鳥 16%、旅鳥 2%と、一年を通してみられる留鳥が過半数を占めたが、次いで夏鳥が 4 分の 1 を占めた。(図 7-1)。渡り区分の分類は、基本的に「大阪府鳥類目録 2016」(日本野鳥の会大阪支部, 2017) に準じた。旅鳥(一部夏鳥)とされるコサメビタキについては、現地調査において繁殖期に幼鳥が確認されていることから、夏鳥として扱った。

渡り区分	種数	割合
留鳥	26 種	53%
夏鳥	12 種	25%
冬鳥	8 種	16%
旅鳥	1 種	2%
移入種	2 種	4%

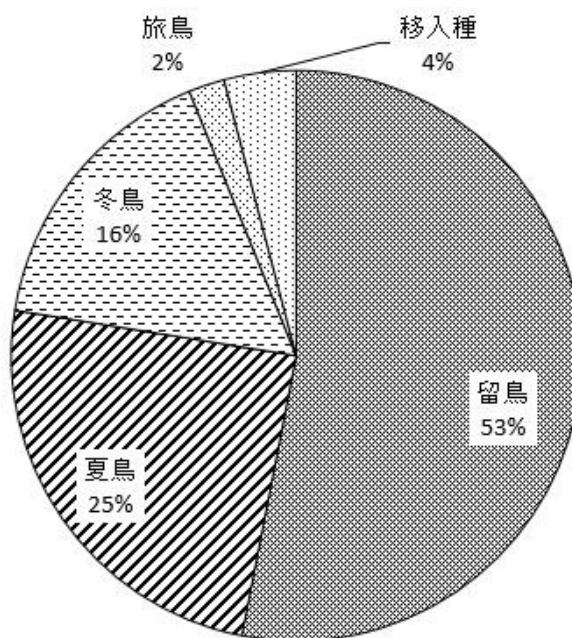


図 7-1 現地調査 渡り区分の内訳

表 7-1 現地調査 鳥類確認種

No.	目 名	科 名	和 名	学 名	繁殖 期	秋期	越冬 期	渡り 区分
1	キジ	キジ	ヤマドリ	<i>Syrnaticus soemmerringii</i>	○			留鳥
2	ハト	ハト	キジバト	<i>Streptopelia orientalis</i>		○		留鳥
3			アオバト	<i>Treron sieboldii</i>			○	留鳥
4	カッコウ	カッコウ	ホトトギス	<i>Cuculus poliocephalus</i>	○			夏鳥
5	タカ	タカ	ハチクマ	<i>Pernis ptilorhynchus</i>	○	○		夏鳥
6			トビ	<i>Milvus migrans</i>		○	○	留鳥
7	フクロウ	フクロウ	フクロウ	<i>Strix uralensis</i>	○			留鳥
8	ブッポウソウ	カワセミ	カワセミ	<i>Alcedo atthis</i>			○	留鳥
9	キツツキ	キツツキ	コゲラ	<i>Dendrocopos kizuki</i>	○	○	○	留鳥
10			オオアカゲラ	<i>Dendrocopos leucotos</i>		○		留鳥
11			アオゲラ	<i>Picus awokera</i>	○	○	○	留鳥
12	スズメ	サンショウクイ	サンショウクイ	<i>Pericrocotus divaricatus</i>	○			夏鳥
13		カササギヒタキ	サンコウチョウ	<i>Terpsiphone atrocaudata</i>	○			夏鳥
14		モズ	モズ	<i>Lanius bucephalus</i>		○		留鳥
15		カラス	カケス	<i>Garrulus glandarius</i>	○	○	○	留鳥
16			ハシボソガラス	<i>Corvus corone</i>		○	○	留鳥
17			ハシブトガラス	<i>Corvus macrorhynchos</i>	○	○	○	留鳥
18		キクイタダキ	キクイタダキ	<i>Regulus regulus</i>				冬鳥
19		シジュウカラ	ヤマガラ	<i>Poecile varius</i>	○	○	○	留鳥
20			ヒガラ	<i>Periparus ater</i>	○	○	○	留鳥
21			シジュウカラ	<i>Parus minor</i>	○	○	○	留鳥
22		ツバメ	コシアカツバメ	<i>Hirundo daurica</i>	○	○		夏鳥
23			イワツバメ	<i>Delichon dasypus</i>	○			夏鳥
24		ヒヨドリ	ヒヨドリ	<i>Hypsipetes amaurotis</i>	○	○	○	留鳥
25		ウグイス	ウグイス	<i>Cettia diphone</i>	○	○	○	留鳥
26			ヤブサメ	<i>Urosphena squameiceps</i>	○	○		夏鳥
27		エナガ	エナガ	<i>Aegithalos caudatus</i>	○	○	○	留鳥
28		ムシクイ	エゾムシクイ	<i>Phylloscopus borealoides</i>		○		旅鳥
29			センダイムシクイ	<i>Phylloscopus coronatus</i>	○			夏鳥
30		メジロ	メジロ	<i>Zosterops japonicus</i>	○	○	○	留鳥
31		キバシリ	キバシリ	<i>Certhia familiaris</i>	○	○	○	冬鳥
32		ミソサザイ	ミソサザイ	<i>Troglodytes troglodytes</i>			○	留鳥
33		ヒタキ	クロツグミ	<i>Turdus cardis</i>	○	○		夏鳥
34			シロハラ	<i>Turdus pallidus</i>			○	冬鳥
35			ルリビタキ	<i>Tarsiger cyanurus</i>			○	冬鳥
36			ジョウビタキ	<i>Phoenicurus aureus</i>			○	冬鳥
37			コサメビタキ	<i>Muscicapa dauurica</i>	○	○		夏鳥
38			キビタキ	<i>Ficedula narcissina</i>	○			夏鳥
39			オオルリ	<i>Cyanoptila cyanomelana</i>	○			夏鳥
40		スズメ	スズメ	<i>Passer montanus</i>			○	留鳥
41		セキレイ	キセキレイ	<i>Motacilla cinerea</i>	○			留鳥
42		アトリ	アトリ	<i>Fringilla montifringilla</i>			○	冬鳥
43			カワラヒワ	<i>Chloris sinica</i>	○		○	留鳥
44			イカル	<i>Eophona personata</i>	○		○	留鳥
45		ホオジロ	ホオジロ	<i>Emberiza cioides</i>	○	○	○	留鳥
46			アオジ	<i>Emberiza spodocephala</i>			○	冬鳥
47			クロジ	<i>Emberiza variabilis</i>			○	冬鳥
48	(キジ)	(キジ)	コジュケイ	<i>Bambusicola thoracicus</i>		○		移入
49	(スズメ)	(チメドリ)	ソウシチョウ	<i>Leiothrix lutea</i>	○			移入
	8 目	27 科	49 種		31 種	25 種	28 種	

③ 鳥類の繁殖状況

繁殖期調査において確認された 31 種は、いずれも調査範囲及びその周辺で繁殖している可能性がある（繁殖ランク C に該当）。このうち 19 種、および秋季にさえずりが確認されているキジバトを含めた合計 20 種は、現地調査において繁殖を示唆する行動が確認され（繁殖ランク B）、調査範囲内で繁殖している可能性が高い。繁殖の可能性がある種の内訳は表 7-2 に示すとおりである。繁殖行動の判定基準は、全国鳥類繁殖分布調査における繁殖ランク（NPO 法人バードリサーチ, 2014）に準じた。

表 7-2 鳥類の繁殖状況

ランク	観察コード	観察事項	該当種
A (繁殖を確認)	10	該当なし	—
B (繁殖の可能性が高い) 20 種	30	その種が営巣し得る環境で繁殖期に、その種のさえずり（キツツキ類のドラミングを含める）を聞いた。ただし、その鳥が冬鳥、旅鳥かもしれない時は除く	キジバト、ホトトギス、アオゲラ、サンコウチョウ、ヤマガラ、ヒガラ、ヒヨドリ、ウグイス、ヤブサメ、センダイムシクイ、メジロ、クロツグミ、コサメビタキ、キビタキ、オオルリ、カワラヒワ、イカル、ホオジロ
	37	成鳥がヒナへの餌を運搬しているが、巣が周囲にあるかどうかかわからない	ホオジロ
	38	巣を発見したが、卵、ヒナともなく、成鳥がそこに来るのを認めなかった	コシアカツバメ
	39	かなり移動可能と思われる巣立ちヒナを見た	ヒガラ、コサメビタキ、キビタキ、オオルリ、ホオジロ
	40	家族群を見た	シジュウカラ
C (繁殖の可能性あり) 12 種	50	その種が営巣し得る環境で繁殖期にその種を確認したが、他には繁殖の兆候が認められない。ただし冬鳥または旅鳥は過去にその地方で繁殖の記録があるもの	ヤマドリ、ハチクマ、フクロウ、コゲラ、サンショウクイ、カケス、ハシブトガラス、イワツバメ、エナガ、キバシリ、ソウシチョウ、キセキレイ

※全国鳥類繁殖分布調査における繁殖ランク（NPO 法人バードリサーチ, 2014） <https://bird-atlas.jp/map.html#yoshi> を参照し、該当箇所を抜粋して作成した。

④ ラインセンサス法による鳥類の確認個体数

ラインセンサスによる調査の結果、4 目 19 科 35 種 439 個体の鳥類を確認した。調査回毎の個体数を表 7-3 に示す。両ルートを通じてメジロの個体数が最も多く、ヤマガラ、ヒヨドリ、ヒガラ、エナガといった群性の強い留鳥がこれに続いた。谷筋の R1 では、谷間を好むサンコウチョウ、ヤブサメ、ミソサザイ、クロジが確認された。また、尾根筋の R2 ではサンショウクイ、センダイムシクイ、コサメビタキ、キビタキといった尾根を好む鳥のほか、ハチクマやツバメ類など飛翔性の鳥、オオアカゲラやキバシリといった山地性の鳥も確認され、種数、個体数とも多かった。

表 7-3 ラインセンサス法 調査回・ルート毎の確認個体数

No.	目 名	科 名	種 名	R1				R2				総計	
				繁殖期	秋期	越冬期	計	繁殖期	秋期	越冬期	計		
1	ハト	ハト	キジバト		2		2		1		1	3	
2			アオバト							3	3	3	
3	タカ	タカ	ハチクマ					1			1	1	
4	キツツキ	キツツキ	コゲラ	3	2		5	3		4	7	12	
5			オオアカゲラ					1		1	1	1	
6			アオゲラ		1		1	3		1	4	5	
7			スズメ	サンショウクイ	サンショウクイ					6			6
8		カササギヒタキ	サンコウチョウ	1			1					1	
9		カラス	カケス		1		1		1	1	2	3	
10			ハシブトガラス		1	1	2			1	1	3	
11		キクイタダキ	キクイタダキ			2	2					2	
12		シジュウカラ	ヤマガラ	7	9	11	27	12	9	16	37	64	
13			ヒガラ	9	3	5	17	13	3	7	23	40	
14			シジュウカラ	3	3	1	7	1	2	5	8	15	
15		ツバメ	コシアカツバメ					2			2	2	
16			イワツバメ					1			1	1	
17		ヒヨドリ	ヒヨドリ	10	28	3	41	9	3	6	18	59	
18		ウグイス	ウグイス					4	4	1	9	9	
19			ヤブサメ	1			1					1	
20		エナガ	エナガ	4		8	12			26	26	38	
21		ムシクイ	センダイムシクイ					1			1	1	
22		メジロ	メジロ	14	26	15	55	24	11	23	58	113	
23		キバシリ	キバシリ					1		1	2	2	
24		ミソサザイ	ミソサザイ			2	2					2	
25		ヒタキ	クロツグミ						1		1	1	
26			シロハラ			1	1			4	4	5	
27			ルリビタキ			2	2			4	4	6	
28			コサメビタキ					1	4		5	5	
29			キビタキ	1			1	8			8	9	
30			オオルリ	1			1	5			5	6	
31		アトリ	アトリ			2	2			1	1	3	
32			カワラヒワ	4			4	3			3	7	
33			イカル	2			2	1			1	3	
34		ホオジロ	ホオジロ	3			3	2		1	3	6	
35			クロジ			1	1					1	
	4 目	19 科	35 種	種数	14	10	13	24	20	11	17	30	35
				個体数	63	76	54	193	101	40	105	246	439

⑤ 定点観察による鳥類の確認個体数

定点観察による調査の結果調査の結果、3 目 12 科 18 種 46 個体の鳥類を確認した。調査回毎の個体数を表 7-4 に示す。山頂部に位置する P1 は繁殖期に、繁殖を終えた家族群などの飛来があり、各種の活発な活動が見られたが、秋期にはメジロを除いて個体数を減じ、越冬期にはメジロもほとんど見られなくなった。多くの鳥は、多少とも温暖な山麓部へ漂行したものと考えられる。

表 7-4 定点観察 調査回毎の確認個体数

No.	目 名	科 名	種 名		P1			総計
					繁殖期	秋期	越冬期	
1	タカ	タカ	ハチクマ			1		1
2	キツツキ	キツツキ	コゲラ		1			1
3			アオゲラ		1			1
4	スズメ	サンショウクイ	サンショウクイ		3			3
5		カラス	カケス				1	1
6			ハシブトガラス				2	2
7		キクイタダキ	キクイタダキ				1	1
8		シジュウカラ	ヤマガラ		1	1		2
9			ヒガラ		2	1		3
10			シジュウカラ			1		1
11		ツバメ	イワツバメ		1			1
12		ヒヨドリ	ヒヨドリ		2	1	3	6
13		ウグイス	ウグイス		1			1
14		メジロ	メジロ		4	10	1	15
15		ヒタキ	ルリビタキ				1	1
16			キビタキ		1			1
17			オオルリ		3			3
18		アトリ	カワラヒワ		2			2
	3 目	12 科	18 種	種数	12	6	6	18
				個体数	22	15	9	46

⑥ 重要種

現地調査で確認された鳥類のうち、重要種に該当する種は4目7科7種であった。確認された重要種を表 7-5、確認位置を図 7-2 に示す。

環境省レッドリスト掲載種のハチクマ、サンショウクイが確認されたほか、大阪府レッドリストに掲載されるフクロウ、オオアカゲラなど7種が確認された。

表 7-5 確認された重要種

No.	目名	科 名	種 名	学 名	種の 保存法	環境省 RL	大阪府 RL
1	タカ	タカ	ハチクマ	<i>Pernis ptilorhynchus</i>		NT	CR+EN
2	フクロウ	フクロウ	フクロウ	<i>Strix uralensis</i>			NT
3	キツツキ	キツツキ	オオアカゲラ	<i>Dendrocopos leucotos</i>			NT
4	スズメ	サンショウクイ	サンショウクイ	<i>Pericrocotus divaricatus</i>		VU	VU
5		ツバメ	コシアカツバメ	<i>Hirundo daurica</i>			NT
6		ムシクイ	センダイムシクイ	<i>Phylloscopus coronatus</i>			NT
7		ヒタキ	コサメビタキ	<i>Muscicapa dauurica</i>			VU
計	4 目	7 科	7 種		0 種	2 種	7 種

種の保存法 国際：国際希少野生動植物種

環境省および大阪府レッドリスト

CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類 絶滅の危機に瀕している種

VU：絶滅危惧Ⅱ類 絶滅の危険が増大している種

NT：準絶滅危惧 存続基盤が脆弱な種

⑦ 哺乳類確認種

現地調査の結果、4目6科6種の哺乳類を確認した。確認された哺乳類を表 7-6 に示す。
分類および配列は「世界哺乳類標準和名目録」（日本哺乳類学会, 2018）に従った。

表 7-6 哺乳類確認種

No.	目名	科 名	種 名	学 名	確認内容
1	齧歯	リス	ニホンリス	<i>Sciurus lis</i>	食痕、足跡
2	真無盲腸	モグラ	ニホンモグラ属の一種	<i>Mogera sp.</i>	坑道
3	食肉	イヌ	タヌキ	<i>Nyctereutes procyonoides</i>	足跡
4		イタチ	ニホンテン	<i>Martes melampus</i>	糞、足跡
5	偶蹄	イノシシ	イノシシ	<i>Sus scrofa</i>	掘り返し跡
6		シカ	ニホンジカ	<i>Cervus nippon</i>	目撃、糞、足跡
	4 目	6 科	6 種		

⑧ 哺乳類重要種

現地調査で確認された哺乳類のうち、重要種に該当する種は確認されなかった。

7-2 文献・資料調査結果

表 5-1 で示したそれぞれの文献・資料の記載概況を表 7-7 に示す。

表 7-7 文献概要

文献 No.	文献・情報名	文献・情報の内容
文献 1	大阪府鳥類目録 2016 (日本野鳥の会大阪支部)	2002 年 4 月～2016 年 3 月までの大阪支部報、むくどり通信に記載された記録から能勢（妙見山、初谷）において記録されている種を抜粋。
文献 2	能勢定例探鳥会観察記録	2015～2024 年の 10 年間の探鳥会記録
資料 1	大阪市立自然史博物館 標本 収蔵記録（和田岳学芸員から のヒアリングによる）	近年博物館に収蔵された妙見山周辺の哺乳類について

① 文献調査による鳥類確認種

文献調査の結果、13 目 39 科 99 種の鳥類を確認した。確認種を表 7-8 に示す。文献別では、文献①で 93 種、文献②で 84 種が確認された。

文献調査で確認した鳥類の渡り区分は、留鳥 43 種、夏鳥 18 種、冬鳥 27 種、旅鳥 8 種、であった（表 7-8、図 7-3）。また、移入種としてコジュケイ、ドバト、ソウシチョウの 3 種が確認された。渡り区分の分類は、基本的に「大阪府鳥類目録 2016」（日本野鳥の会大阪支部，2017）に準じた。旅鳥（一部夏鳥）とされるコサメビタキについては、現地調査において繁殖期に確認されていることから、夏鳥として扱った。

現地調査と比べ、冬鳥、旅鳥の占める割合がやや高かった。毎年繁殖する留鳥や夏鳥に対して、年によって渡来数に波がある冬鳥、短期間の滞在で渡去してしまう場合が多い旅鳥は、単年度の調査では確認されない場合もあり、集積された文献・資料でのみ確認される種が少なくない。

渡り区分	種数	割合
留鳥	43 種	44%
夏鳥	18 種	18%
冬鳥	27 種	27%
旅鳥	8 種	8%
移入種	3 種	3%

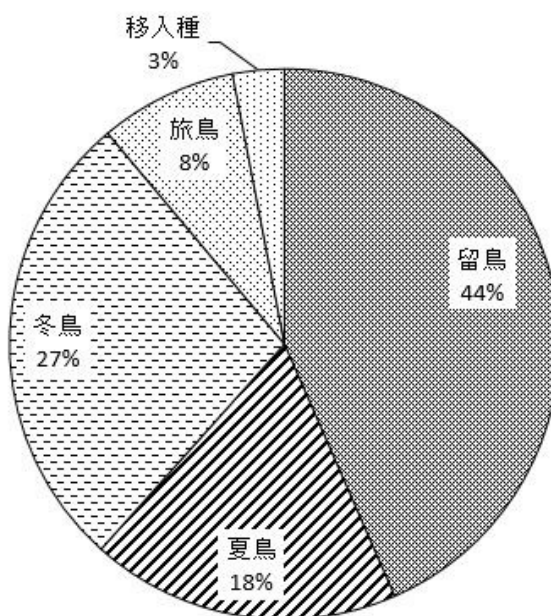


図 7-3 文献調査 渡り区分の内訳

表 7-8(1) 文献調査 鳥類確認種(1/2)

No.	目名	科名	和名	学名	文献 1	文献 2	渡り 区分
1	キジ	キジ	キジ	<i>Phasianus colchicus</i>	○	○	留鳥
2	カモ	カモ	ヒドリガモ	<i>Anas penelope</i>	○		冬鳥
3			カルガモ	<i>Anas zonorhyncha</i>	○	○	留鳥
4	ハト	ハト	キジバト	<i>Streptopelia orientalis</i>	○	○	留鳥
5			アオバト	<i>Treron sieboldii</i>	○		留鳥
6	カツオドリ	ウ	カワウ	<i>Phalacrocorax carbo</i>	○	○	留鳥
7	ペリカン	サギ	ゴイサギ	<i>Nycticorax nycticorax</i>	○		留鳥
8			アオサギ	<i>Ardea cinerea</i>	○	○	留鳥
9			ダイサギ	<i>Ardea alba</i>	○	○	留鳥
10			コサギ	<i>Egretta garzetta</i>	○	○	留鳥
11	カッコウ	カッコウ	ホトトギス	<i>Cuculus poliocephalus</i>	○	○	夏鳥
12			ツツドリ	<i>Cuculus optatus</i>	○	○	夏鳥
13			カッコウ	<i>Cuculus canorus</i>	○		夏鳥
14	チドリ	チドリ	コチドリ	<i>Charadrius dubius</i>		○	留鳥
15		シギ	アオシギ	<i>Gallinago solitaria</i>		○	冬鳥
16	タカ	ミサゴ	ミサゴ	<i>Pandion haliaetus</i>	○	○	留鳥
17		タカ	ハチクマ	<i>Pernis ptilorhynchus</i>	○	○	夏鳥
18			トビ	<i>Milvus migrans</i>	○	○	留鳥
19			ツミ	<i>Accipiter gularis</i>		○	留鳥
20			ハイタカ	<i>Accipiter nisus</i>	○	○	冬鳥
21			オオタカ	<i>Accipiter gentilis</i>	○	○	留鳥
22			サシバ	<i>Butastur indicus</i>	○	○	夏鳥
23			ノスリ	<i>Buteo buteo</i>	○	○	冬鳥
24	フクロウ	フクロウ	フクロウ	<i>Strix uralensis</i>	○	○	留鳥
25			アオバズク	<i>Ninox scutulata</i>		○	夏鳥
26	ブッポウソウ	カワセミ	アカショウビン	<i>Halcyon coromanda</i>	○		夏鳥
27			カワセミ	<i>Alcedo atthis</i>	○	○	留鳥
28			ヤマセミ	<i>Megaceryle lugubris</i>	○		留鳥
29	キツツキ	キツツキ	コゲラ	<i>Dendrocopos kizuki</i>	○	○	留鳥
30			アカゲラ	<i>Dendrocopos major</i>	○	○	冬鳥
31			アオゲラ	<i>Picus awokera</i>	○	○	留鳥
32	ハヤブサ	ハヤブサ	ハヤブサ	<i>Falco peregrinus</i>	○		留鳥
33	スズメ	サンショウクイ	サンショウクイ	<i>Pericrocotus divaricatus</i>	○	○	夏鳥
34		カササギヒタキ	サンコウチョウ	<i>Terpsiphone atrocaudata</i>	○	○	夏鳥
35		モズ	モズ	<i>Lanius bucephalus</i>	○	○	留鳥
36		カラス	カケス	<i>Garrulus glandarius</i>	○	○	留鳥
37			ハシボソガラス	<i>Corvus corone</i>	○	○	留鳥
38			ハシブトガラス	<i>Corvus macrorhynchos</i>	○	○	留鳥
39		キクイタダキ	キクイタダキ	<i>Regulus regulus</i>	○	○	冬鳥
40		シジュウカラ	ヤマガラ	<i>Poecile varius</i>	○	○	留鳥
41			ヒガラ	<i>Periparus ater</i>	○	○	留鳥
42			シジュウカラ	<i>Parus minor</i>	○	○	留鳥
43		ヒバリ	ヒバリ	<i>Alauda arvensis</i>	○		留鳥
44		ツバメ	ツバメ	<i>Hirundo rustica</i>	○	○	夏鳥
45			コシアカツバメ	<i>Hirundo daurica</i>	○	○	夏鳥
46			イワツバメ	<i>Delichon dasypus</i>	○	○	夏鳥
47		ヒヨドリ	ヒヨドリ	<i>Hypsipetes amaurotis</i>	○	○	留鳥
48		ウグイス	ウグイス	<i>Cettia diphone</i>	○	○	留鳥
49			ヤブサメ	<i>Urosphena squameiceps</i>	○	○	夏鳥
50		エナガ	エナガ	<i>Aegithalos caudatus</i>	○	○	留鳥
51		ムシクイ	メボソムシクイ	<i>Phylloscopus xanthodryas</i>	○	○	旅鳥
52			センダイムシクイ	<i>Phylloscopus coronatus</i>	○	○	夏鳥
53		メジロ	メジロ	<i>Zosterops japonicus</i>	○	○	留鳥
54		レンジャク	キレンジャク	<i>Bombycilla garrulus</i>		○	冬鳥
55			ヒレンジャク	<i>Bombycilla japonica</i>	○	○	冬鳥

表 7-8(2) 文献調査 鳥類確認種(2/2)

No.	目名	科名	和名	学名	文献 1	文献 2	渡り 区分
56	スズメ	キバシリ	キバシリ	<i>Certhia familiaris</i>	○		冬鳥
57		ミソサザイ	ミソサザイ	<i>Troglodytes troglodytes</i>	○	○	留鳥
58		ムクドリ	ムクドリ	<i>Spodiopsar cineraceus</i>	○	○	留鳥
59			コムクドリ	<i>Agropsar philippensis</i>	○		旅鳥
60		カワガラス	カワガラス	<i>Cinclus pallasii</i>	○	○	留鳥
61		ヒタキ	トラツグミ	<i>Zoothera dauma</i>	○		冬鳥
62			クロツグミ	<i>Turdus cardis</i>	○	○	夏鳥
63			マミチャジナイ	<i>Turdus obscurus</i>	○		旅鳥
64			シロハラ	<i>Turdus pallidus</i>	○	○	冬鳥
65			アカハラ	<i>Turdus chrysolaus</i>	○	○	旅鳥
66			ツグミ	<i>Turdus naumanni</i>	○	○	冬鳥
67			コマドリ	<i>Luscinia akahige</i>	○	○	旅鳥
68			ルリビタキ	<i>Tarsiger cyanurus</i>	○	○	冬鳥
69			ジョウビタキ	<i>Phoenicurus aureus</i>	○	○	冬鳥
70			ノビタキ	<i>Saxicola torquatus</i>	○	○	旅鳥
71			イソヒヨドリ	<i>Monticola solitarius</i>	○	○	留鳥
72			エゾビタキ	<i>Muscicapa griseisticta</i>	○	○	旅鳥
73			コサメビタキ	<i>Muscicapa dauurica</i>	○	○	夏鳥
74			キビタキ	<i>Ficedula narcissina</i>	○	○	夏鳥
75			ムギマキ	<i>Ficedula mugimaki</i>	○		旅鳥
76			オオルリ	<i>Cyanoptila cyanomelana</i>	○	○	夏鳥
77		イワヒバリ	カヤクグリ	<i>Prunella rubida</i>	○		冬鳥
78		スズメ	ニュウナイスズメ	<i>Passer rutilans</i>	○	○	冬鳥
79			スズメ	<i>Passer montanus</i>	○	○	留鳥
80		セキレイ	キセキレイ	<i>Motacilla cinerea</i>	○	○	留鳥
81			ハクセキレイ	<i>Motacilla alba</i>	○	○	留鳥
82			セグロセキレイ	<i>Motacilla grandis</i>	○	○	留鳥
83			ビンズイ	<i>Anthus hodgsoni</i>		○	冬鳥
84		アトリ	アトリ	<i>Fringilla montifringilla</i>	○	○	冬鳥
85			カワラヒワ	<i>Chloris sinica</i>	○	○	留鳥
86			マヒワ	<i>Carduelis spinus</i>	○	○	冬鳥
87			ベニマシコ	<i>Uragus sibiricus</i>	○		冬鳥
88			ウソ	<i>Pyrrhula pyrrhula</i>	○		冬鳥
89			シメ	<i>Coccothraustes coccothraustes</i>	○	○	冬鳥
90			コイカル	<i>Eophona migratoria</i>	○		冬鳥
91			イカル	<i>Eophona personata</i>	○	○	留鳥
92		ホオジロ	ホオジロ	<i>Emberiza cioides</i>	○	○	留鳥
93			カシラダカ	<i>Emberiza rustica</i>	○	○	冬鳥
94			ミヤマホオジロ	<i>Emberiza elegans</i>	○	○	冬鳥
95			アオジ	<i>Emberiza spodocephala</i>	○	○	冬鳥
96			クロジ	<i>Emberiza variabilis</i>	○		冬鳥
97	(キジ)	(キジ)	コジュケイ	<i>Bambusicola thoracicus</i>	○	○	移入
98	(ハト)	(ハト)	ドバト	<i>Columba livia</i>	○	○	移入
99	(スズメ)	(チメドリ)	ソウシチョウ	<i>Leiothrix lutea</i>	○	○	移入
	13 目	39 科	99 種		93 種	81 種	22 種

文献 1：大阪府鳥類目録 2016（2017, 日本野鳥の会大阪支部）

文献 2：能勢定例探鳥会観察記録（平成 27 年～令和 6 年）

- ・分類及び配列は「日本鳥類目録 改訂第 7 版」（2012 年, 日本鳥学会）に従った。
- ・渡り区分の分類は、「大阪府鳥類目録 2016」（日本野鳥の会大阪支部, 2017）に従った。

② 文献調査で確認された重要種（鳥類）

文献調査で確認された鳥類のうち、重要種に該当する種は 7 目 14 科 22 種であった。確認された重要種を表 7-9 に示す。

種の保存法掲載種は 1 種、環境省レッドリスト掲載種が 7 種、大阪府レッドリスト掲載種が 19 種確認された。該当種は各種猛禽類をはじめ、里山や低山に生息する種が主体となっている。

表 7-9 確認された重要種

No.	目 名	科 名	学 名	種 名	種の保 存法	環境省 RL	大阪府 RL
1	カッコウ	カッコウ	ツツドリ	<i>Cuculus optatus</i>			NT
2	チドリ	チドリ	コチドリ	<i>Charadrius dubius</i>			NT
3	タカ	ミサゴ	ミサゴ	<i>Pandion haliaetus</i>		NT	
4		タカ	ハチクマ	<i>Pernis ptilorhynchus</i>		NT	CR+EN
5			ツミ	<i>Accipiter gularis</i>			VU
6			ハイタカ	<i>Accipiter nisus</i>		NT	
7			オオタカ	<i>Accipiter gentilis</i>		NT	NT
8			サシバ	<i>Butastur indicus</i>		VU	CR+EN
9			ノスリ	<i>Buteo buteo</i>			NT
10	フクロウ	フクロウ	フクロウ	<i>Strix uralensis</i>			NT
11			アオバズク	<i>Ninox scutulata</i>			VU
12	ブッポウソウ	カワセミ	ヤマセミ	<i>Megaceryle lugubris</i>			NT
13	ハヤブサ	ハヤブサ	ハヤブサ	<i>Falco peregrinus</i>	国内	VU	
14	スズメ	サンショウクイ	サンショウクイ	<i>Pericrocotus divaricatus</i>		VU	VU
15		ヒバリ	ヒバリ	<i>Alauda arvensis</i>			NT
16		ツバメ	コシアカツバメ	<i>Hirundo daurica</i>			NT
17		ムシクイ	センダイムシクイ	<i>Phylloscopus coronatus</i>			NT
18		カワガラス	カワガラス	<i>Cinclus pallasii</i>			NT
19		ヒタキ	トラツグミ	<i>Zoothera dauma</i>			NT
20			コサメビタキ	<i>Muscicapa dauurica</i>			VU
21		ホオジロ	カシラダカ	<i>Emberiza rustica</i>			NT
22			ミヤマホオジロ	<i>Emberiza elegans</i>			NT
計	7 目	14 科	22 種		1 種	7 種	19 種

種の保存法 国内：国内希少野生動植物種

環境省および大阪府レッドリスト

CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類 絶滅の危機に瀕している種

VU：絶滅危惧Ⅱ類 絶滅の危険が増大している種

NT：準絶滅危惧種 存続基盤が脆弱な種

DD：情報不足 評価するだけの情報が不足している種

③ 文献調査による哺乳類確認種

文献・資料調査の結果、2 目 6 科 8 種の哺乳類を確認した。確認された哺乳類を表 7-10 に示す。分類および配列は「世界哺乳類標準和名目録」（日本哺乳類学会, 2018）に従った。

表 7-10 文献・資料調査 哺乳類確認種

No.	目名	科 名	種 名	学 名	資料 1
1	食肉	ジャコウネコ	ハクビシン	<i>Paguma larvata</i>	○
2		イヌ	タヌキ	<i>Nyctereutes procyonoides</i>	○
3		イタチ	ニホンテン	<i>Martes melampus</i>	○
4			アナグマ	<i>Meles anakuma</i>	○
5			シベリアイタチ	<i>Mustela sibirica</i>	○
6		アライグマ	アライグマ	<i>Procyon lotor</i>	○
7	偶蹄	イノシシ	イノシシ	<i>Sus scrofa</i>	○
8		シカ	ニホンジカ	<i>Cervus nippon</i>	○
	2 目	6 科	8 種		8 種

資料 1：大阪市立自然史博物館 和田岳氏ヒアリングによる標本収蔵記録

④ 文献調査で確認された重要種（哺乳類）

文献・資料調査で確認された哺乳類のうち、重要種に該当する種はアナグマの 1 目 1 科 1 種であった。確認された重要種を表 7-11 に示す。

表 7-11 文献・資料調査で確認された哺乳類の重要種

No.	目名	科 名	種 名	学 名	文化財 保護法	種の保 存法	環境省 RL	大阪府 RL
1	食肉	イタチ	アナグマ	<i>Meles anakuma</i>				NT
計	1 目	1 科	1 種		0 種	0 種	0 種	1 種

NT：準絶滅危惧種 存続基盤が脆弱な種

8. まとめ

8-1 調査結果の集約

- ・現地調査の結果、8 目 27 科 49 種の鳥類が確認された。重要種はこのうち 7 種であった。
確認した鳥類の渡り区分の内訳は留鳥の割合が過半数を占め、次いで夏鳥が多く 4 分の 1 を占めた。繁殖が確認された種（A ランク）はなかったが、繁殖の可能性が高い種（B ランク）は 19 種であった。
- ・ラインセンサス法で記録された鳥類は 4 目 19 科 35 種 439 個体で、内訳は R1 で 24 種 193 個体、R2 で 30 種 246 個体であった。定点観察で記録された鳥類は 3 目 12 科 18 種 46 個体であった。全ルート、地点を通じてメジロの個体数が最も多く、ヤマガラ、ヒヨドリ、ヒガラ、エナガといった群性の強い留鳥がこれに続いた。R1 では谷間を好むサンコウチョウ、ヤブサメ、ミソサザイ、クロジが、R2 ではサンショウクイ、センダイムシクイ、コサメビタキ、キビタキといった尾根を好む鳥のほか、ハチクマやツバメ類など飛翔性の鳥、オオアカゲラやキバシリといった山地性の鳥も確認された。山頂部の P1 では、越冬期にはわずかな鳥しか確認されなかった。
- ・文献調査の結果、13 目 39 科 99 種の鳥類が確認され、そのうち 22 種が重要種であった。
渡り区分の内訳は、留鳥の割合が一番高かったが、現地調査と異なり、年によって渡来数に変化がある冬鳥が、次に高い割合を示した。重要種の内訳では、各種猛禽類の占める比率が高く、また里山から低山に生息する種が多く含まれていた。
- ・哺乳類は現地調査において 4 目 6 科 6 種、文献調査において 2 目 6 科 8 種が確認された。
このうち重要種は、文献調査で確認されたアナグマ 1 種であった。

8-2 総括

現地調査と文献調査により、13 目 39 科 102 種の鳥類が確認され、そのうち 23 種が重要種であった（表 8-1）。また、哺乳類は 4 目 8 科 10 種が確認され、重要種は 1 種であった（表 8-2）。

妙見山山頂付近は、大阪府において希少であり、西日本でも数少ない、ブナの天然林が低標高に保全されている地域として、府の天然記念物、大阪府自然環境保全地域、大阪みどりの百選として、各方面より注目度の高い地域である。このブナ林を中心に設定された妙見山鳥獣保護区では、里山から低山で繁殖する留鳥および夏鳥に加え、山地性のオオアカゲラも確認された。妙見山鳥獣保護区は府域の鳥獣の生息地としても特殊性の高い、貴重な地域であると言える。大径のブナ林とともに生きる野生鳥獣の生息地として、引き続き保護区として更新を続け、安定的な自然環境を維持することが重要であると考えられる。

表 8-1(1) 鳥類確認種目録 (1/2)

No.	目名	科名	種名	学名	現地	文献	重要種
1	キジ	キジ	ヤマドリ	<i>Syrmaticus soemmerringii</i>	●		
2			キジ	<i>Phasianus colchicus</i>		○	
3	カモ	カモ	ヒドリガモ	<i>Anas penelope</i>		○	
4			カルガモ	<i>Anas zonorhyncha</i>		○	
5	ハト	ハト	キジバト	<i>Streptopelia orientalis</i>	●	○	
6			アオバト	<i>Treron sieboldii</i>	●	○	
7	カツオドリ	ウ	カワウ	<i>Phalacrocorax carbo</i>		○	
8	ベリカン	サギ	ゴイサギ	<i>Nycticorax nycticorax</i>		○	
9			アオサギ	<i>Ardea cinerea</i>		○	
10			ダイサギ	<i>Ardea alba</i>		○	
11			コサギ	<i>Egretta garzetta</i>		○	
12	カッコウ	カッコウ	ホトトギス	<i>Cuculus poliocephalus</i>	●	○	
13			ツツドリ	<i>Cuculus optatus</i>		○	◆
14			カッコウ	<i>Cuculus canorus</i>		○	
15	チドリ	チドリ	コチドリ	<i>Charadrius dubius</i>		○	◆
16		シギ	アオシギ	<i>Gallinago solitaria</i>		○	
17	タカ	ミサゴ	ミサゴ	<i>Pandion haliaetus</i>		○	◆
18		タカ	ハチクマ	<i>Pernis ptilorhynchus</i>	●	○	◆
19			トビ	<i>Milvus migrans</i>	●	○	
20			ツミ	<i>Accipiter gularis</i>		○	◆
21			ハイタカ	<i>Accipiter nisus</i>		○	◆
22			オオタカ	<i>Accipiter gentilis</i>		○	◆
23			サシバ	<i>Butastur indicus</i>		○	◆
24			ノスリ	<i>Buteo buteo</i>		○	◆
25	フクロウ	フクロウ	フクロウ	<i>Strix uralensis</i>	●	○	◆
26			アオバズク	<i>Ninox scutulata</i>		○	◆
27	ブッポウソウ	カワセミ	アカシヨウビン	<i>Halcyon coromanda</i>		○	
28			カワセミ	<i>Alcedo atthis</i>	●	○	
29			ヤマセミ	<i>Megaceryle lugubris</i>		○	◆
30	キツツキ	キツツキ	コゲラ	<i>Dendrocopos kizuki</i>	●	○	
31			オオアカゲラ	<i>Dendrocopos leucotos</i>	●		◆
32			アカゲラ	<i>Dendrocopos major</i>		○	
33			アオゲラ	<i>Picus awokera</i>	●	○	
34	ハヤブサ	ハヤブサ	ハヤブサ	<i>Falco peregrinus</i>		○	◆
35	スズメ	サンショウクイ	サンショウクイ	<i>Pericrocotus divaricatus</i>	●	○	◆
36		カササギヒタキ	サンコウチョウ	<i>Terpsiphone atrocaudata</i>	●	○	
37		モズ	モズ	<i>Lanius bucephalus</i>	●	○	
38		カラス	カケス	<i>Garrulus glandarius</i>	●	○	
39			ハシボソガラス	<i>Corvus corone</i>	●	○	
40			ハシブトガラス	<i>Corvus macrorhynchos</i>	●	○	
41		キクイタダキ	キクイタダキ	<i>Regulus regulus</i>	●	○	
42		シジュウカラ	ヤマガラ	<i>Poecile varius</i>	●	○	
43			ヒガラ	<i>Periparus ater</i>	●	○	
44			シジュウカラ	<i>Parus minor</i>	●	○	
45		ヒバリ	ヒバリ	<i>Alauda arvensis</i>		○	◆
46		ツバメ	ツバメ	<i>Hirundo rustica</i>		○	
47			コシアカツバメ	<i>Hirundo daurica</i>	●	○	◆
48			イワツバメ	<i>Delichon dasypus</i>	●	○	
49		ヒヨドリ	ヒヨドリ	<i>Hypsipetes amaurotis</i>	●	○	
50		ウグイス	ウグイス	<i>Cettia diphone</i>	●	○	
51			ヤブサメ	<i>Urosphena squameiceps</i>	●	○	
52		エナガ	エナガ	<i>Aegithalos caudatus</i>	●	○	
53		ムシクイ	メボソムシクイ	<i>Phylloscopus xanthodryas</i>		○	
54			エゾムシクイ	<i>Phylloscopus borealoides</i>	●		
55			センダイムシクイ	<i>Phylloscopus coronatus</i>	●	○	◆

表 8-1(2) 鳥類確認種目録 (2/2)

No.	目名	科名	種名	学名	現地	文献	重要種
56	スズメ	メジロ	メジロ	<i>Zosterops japonicus</i>	●	○	
57		レンジャク	キレンジャク	<i>Bombycilla garrulus</i>		○	
58			ヒレンジャク	<i>Bombycilla japonica</i>		○	
59		キバシリ	キバシリ	<i>Certhia familiaris</i>	●	○	
60		ミソサザイ	ミソサザイ	<i>Troglodytes troglodytes</i>	●	○	
61		ムクドリ	ムクドリ	<i>Spodiopsar cineraceus</i>		○	
62			コムクドリ	<i>Agropsar philippensis</i>		○	
63		カワガラス	カワガラス	<i>Cinclus pallasii</i>		○	◆
64		ヒタキ	トラツグミ	<i>Zoothera dauma</i>		○	◆
65			クロツグミ	<i>Turdus cardis</i>	●	○	
66			マミチャジナイ	<i>Turdus obscurus</i>		○	
67			シロハラ	<i>Turdus pallidus</i>	●	○	
68			アカハラ	<i>Turdus chrysolaus</i>		○	
69			ツグミ	<i>Turdus naumanni</i>		○	
70			コマドリ	<i>Luscinia akahige</i>		○	
71			ルリビタキ	<i>Tarsiger cyanurus</i>	●	○	
72			ジョウビタキ	<i>Phoenicurus aureus</i>	●	○	
73			ノビタキ	<i>Saxicola torquatus</i>		○	
74			イソヒヨドリ	<i>Monticola solitarius</i>		○	
75			エゾビタキ	<i>Muscicapa griseisticta</i>		○	
76			コサメビタキ	<i>Muscicapa dauurica</i>	●	○	◆
77			キビタキ	<i>Ficedula narcissina</i>	●	○	
78			ムギマキ	<i>Ficedula mugimaki</i>		○	
79			オオルリ	<i>Cyanoptila cyanomelana</i>	●	○	
80		イワヒバリ	カヤクグリ	<i>Prunella rubida</i>		○	
81		スズメ	ニュウナイスズメ	<i>Passer rutilans</i>		○	
82			スズメ	<i>Passer montanus</i>	●	○	
83		セキレイ	キセキレイ	<i>Motacilla cinerea</i>	●	○	
84			ハクセキレイ	<i>Motacilla alba</i>		○	
85			セグロセキレイ	<i>Motacilla grandis</i>		○	
86			ビンズイ	<i>Anthus hodgsoni</i>		○	
87		アトリ	アトリ	<i>Fringilla montifringilla</i>	●	○	
88			カワラヒワ	<i>Chloris sinica</i>	●	○	
89			マヒワ	<i>Carduelis spinus</i>		○	
90			ベニマシコ	<i>Uragus sibiricus</i>		○	
91			ウソ	<i>Pyrrhula pyrrhula</i>		○	
92			シメ	<i>Coccothraustes coccothraustes</i>		○	
93			コイカル	<i>Eophona migratoria</i>		○	
94			イカル	<i>Eophona personata</i>	●	○	
95		ホオジロ	ホオジロ	<i>Emberiza cioides</i>	●	○	
96			カシラダカ	<i>Emberiza rustica</i>		○	◆
97			ミヤマホオジロ	<i>Emberiza elegans</i>		○	◆
98			アオジ	<i>Emberiza spodocephala</i>	●	○	
99			クロジ	<i>Emberiza variabilis</i>	●	○	
100	(キジ)	(キジ)	コジュケイ	<i>Bambusicola thoracicus</i>	●	○	
101	(ハト)	(ハト)	ドバト	<i>Columba livia</i>		○	
102	(スズメ)	(チメドリ)	ソウシチョウ	<i>Leiothrix lutea</i>	●	○	
	13 目	39 科	102 種		49 種	99 種	23 種

・分類及び配列は「日本鳥類目録 改訂第7版」(2012年, 日本鳥学会)に従った。

表 8-2 哺乳類確認種目録

No.	目名	科 名	種 名	学 名	現地	文献	重要種
1	齧歯	リス	ニホンリス	<i>Sciurus lis</i>	●		
2	真無盲腸	モグラ	ニホンモグラ属の一種	<i>Mogera sp.</i>	●		
3	食肉	ジャコウネコ	ハクビシン	<i>Paguma larvata</i>		○	
4		イヌ	タヌキ	<i>Nyctereutes procyonoides</i>	●	○	
5		イタチ	ニホンテン	<i>Martes melampus</i>	●	○	
6			アナグマ	<i>Meles anakuma</i>		○	◆
7			シベリアイタチ	<i>Mustela sibirica</i>		○	
8		アライグマ	アライグマ	<i>Procyon lotor</i>		○	
9	偶蹄	イノシシ	イノシシ	<i>Sus scrofa</i>	●	○	
10		シカ	ニホンジカ	<i>Cervus nippon</i>	●	○	
	4 目	8 科	10 種		6 種	8 種	1 種

・分類及び配列は「世界哺乳類標準和名目録」（日本哺乳類学会,2018）に従った。